

平成28年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会
会長 小野浩幸



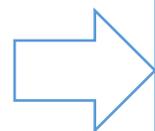
第7期運営の基本

『ニューベータシツク』

(新しい原点への回帰)

社会の大きな変化

- 産における変化 (*Globalization, Open Innovation*)
- 学における変化 (法人化後10年, 少子化)
- 地域における変化 (地方創生, 消滅可能性自治体)



原点に立ち，未来を展望

三つの柱

- I. 学会誌，研究大会の充実
- II. 支部・研究会活動の活性化
- III. 会員ニーズの顕在化



I. 学会誌，研究大会の充実

1. **大会の開催**：平成27年6月25日～26日第13回大会を北見工業大学において開催
(参加者数290名、発表件数177件)
2. **海外学会との交流**：第13回大会で韓国の産学協力学会と日韓ワークショップを開催
3. **学会誌の発行**：学会誌「産学連携学」第11巻第2号(平成27年6月20日)
第12巻第1号(平成27年12月20日)を発行
4. **産学連携学入門の改定版の発行**：「テキスト産学連携学入門(改定版)」上下2巻
発行し**全会員に送付**

II. 支部・研究会活動の活性化

各支部活動

1. **北海道支部**:「地域を育てる『食と健康』イノベーション～高知と青森の戦略～」開催
(平成28年2月23日:札幌市)
2. **東北・北関東支部**:「東日本リエゾンカンファレンス2015in八幡平」開催(平成27年9月8日～10日:八幡平市)、「産学・地域連携シンポジウムー地域連携の多面性とその条件を探るー」開催(平成28年2月4日:宇都宮市)
3. **関西・中四国支部**:第7回研究・事例発表会開催(平成27年12月10日～11日:高知市)
4. **九州支部**:産学連携懇談会・産学連携ネットワーク会議開催(平成28年3月16日:熊本市)

II. 支部・研究会活動の活性化

研究会活動

1. **学連連携システム研究会**: 第14回研究会(平成27年11月6日、甲府市)、第15回研究会(平成28年3月11日:新潟市)
2. **オープンイノベーション研究会**: 発足 平成27年度秋季シンポジウムの企画・運営
3. **リサーチ・アドミニストレーション研究会**: 発足 キックオフイベント(平成27年6月26日:北見市)、第1回研究会(平成27年8月29日:目黒区)、第2回研究会(平成28年1月28日:目黒区)

秋季シンポジウム:

平成27年12月1日に「オープン・イノベーション～企業文化変革への挑戦～」をテーマに東京医科歯科大学(東京都文京区)を会場に開催

III. 会員ニーズの顕在化

会員対象アンケートの実施:

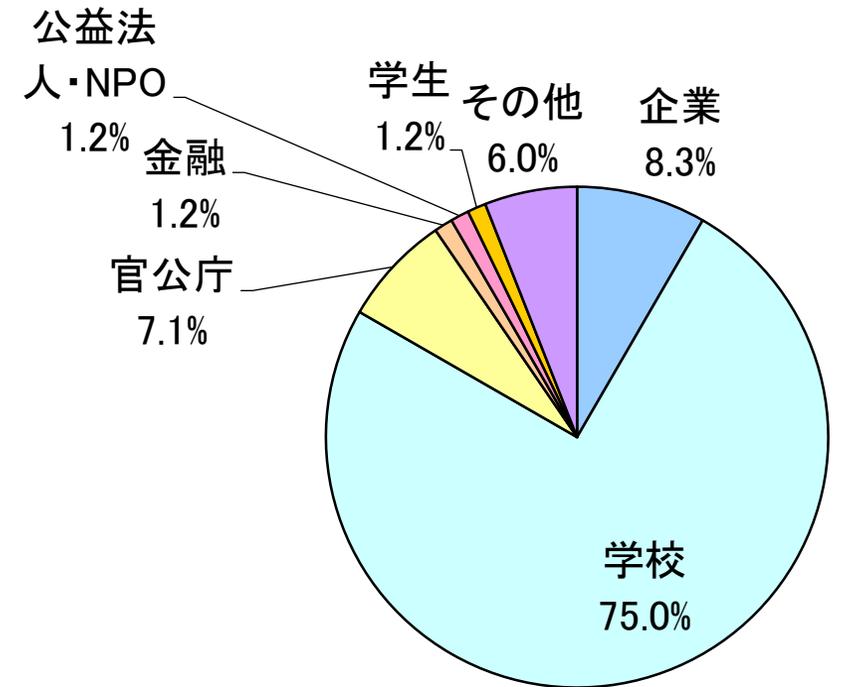
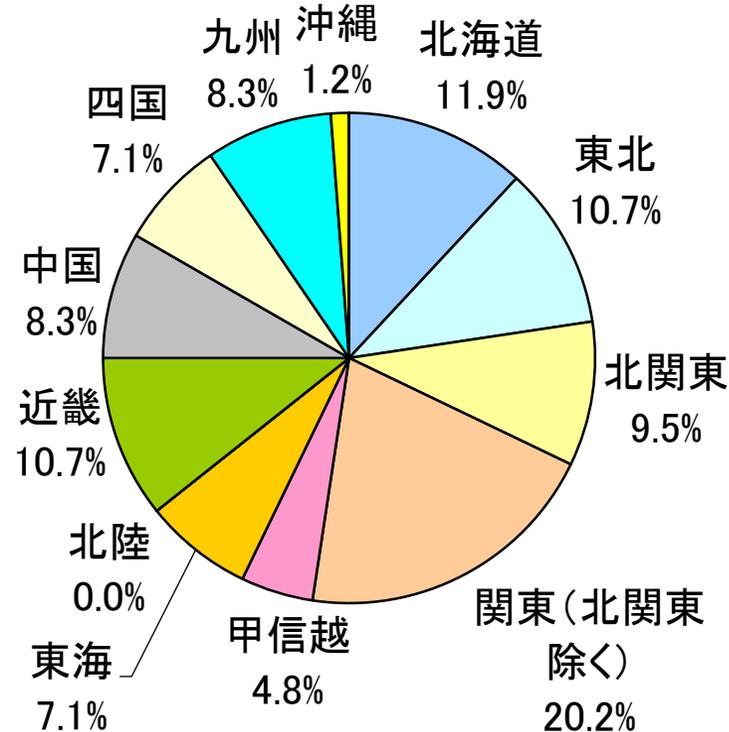
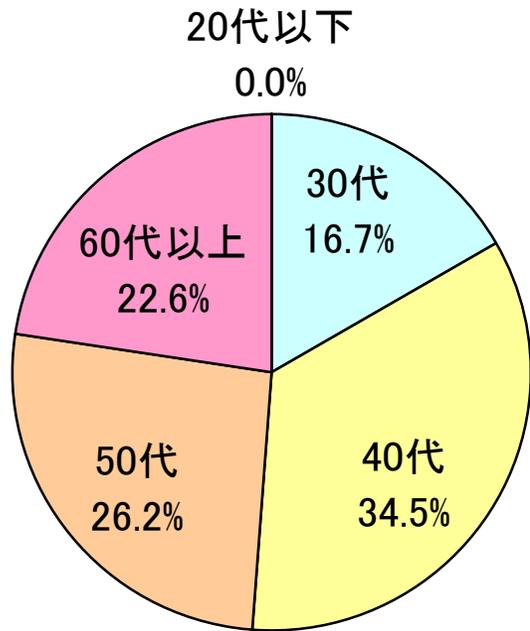
学会員の満足度を高めるため学会の在り方を検討するためのアンケート調査を実施
(平成27年11月9日に全会員向けに依頼を配信
12月11日までの約1か月間WEB上にて回答をいただきました)

多くの方に回答いただきました。ありがとうございました。

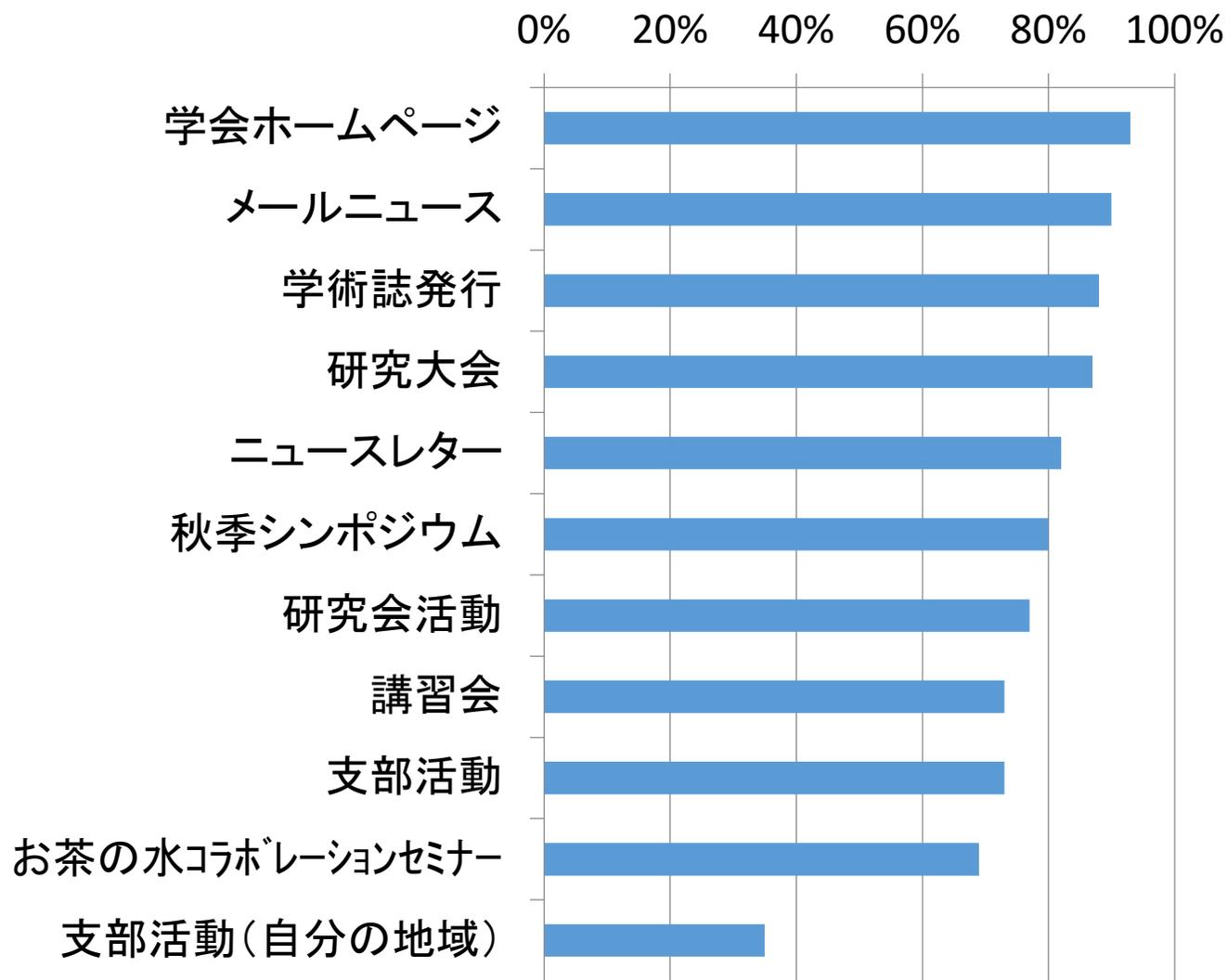


アンケート回答状況

回答者数84人(平成27年時点の正会員数275人 回答率 約31%)



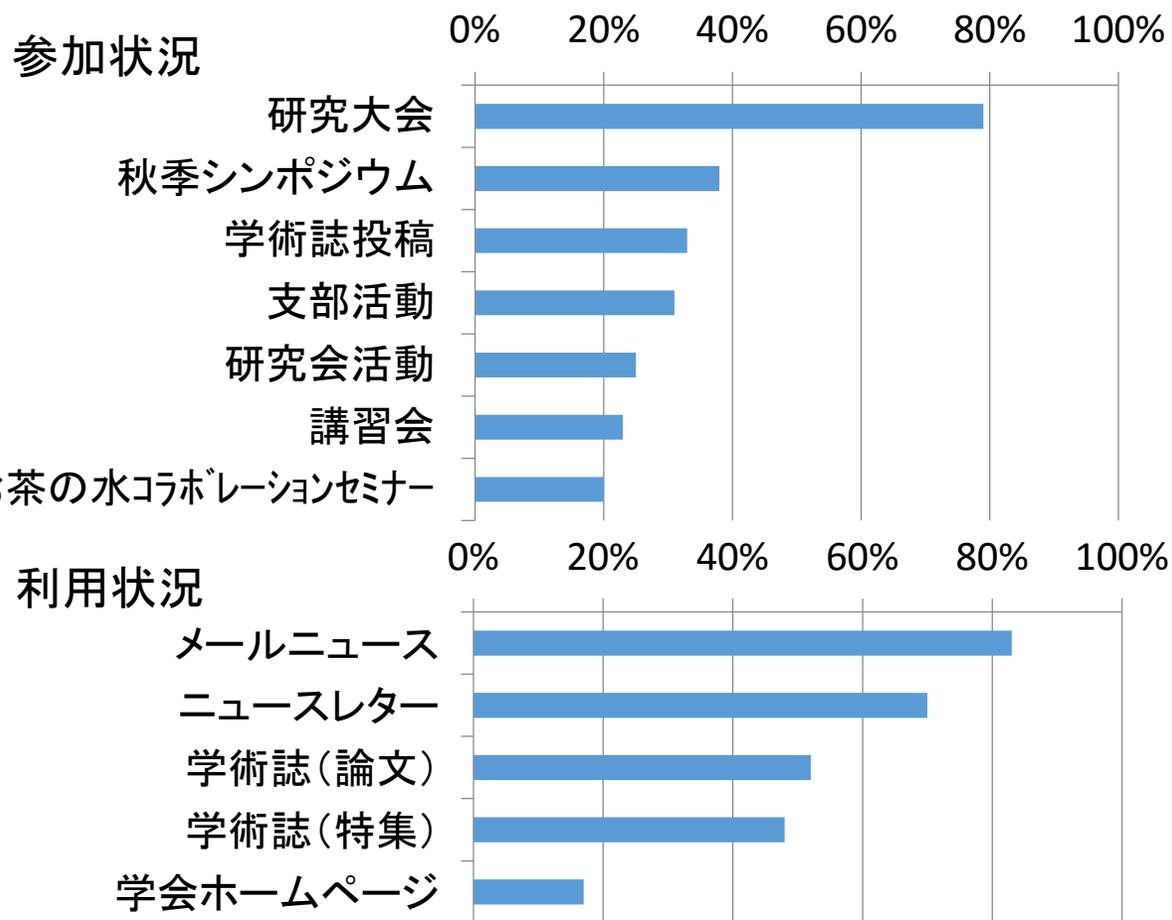
Q1.学会活動を知っているか(認知度)



学会活動の多くは学会員の皆さんに認知されていることがわかりました。

一方で、もう少し周知を図るべき活動、特に会員それぞれの地域の支部活動の情報をもっと提供する必要があることもわかりました。

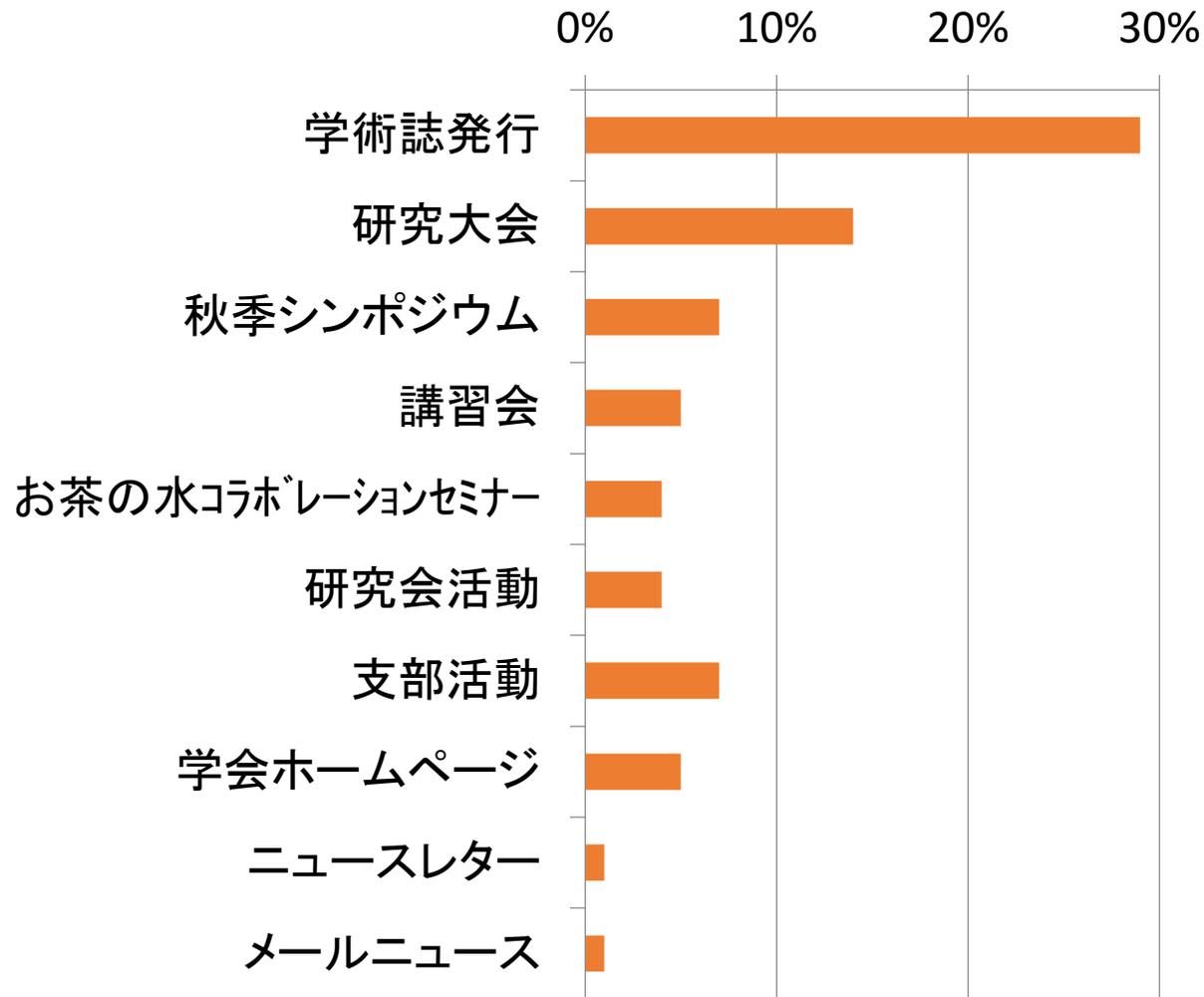
Q2.活動に参加したことがあるか(参加度) 活動を利用したことがあるか(利用度)



研究大会、メールニュース、ニュースレターについては、非常に高い参加・利用度であることがわかりました。

それ以外の活動については、改善を図ることでさらに参加・利用していただける余地があることがわかりました。

Q3. 充実・改善をしてほしいことがあるか(改善要望度)

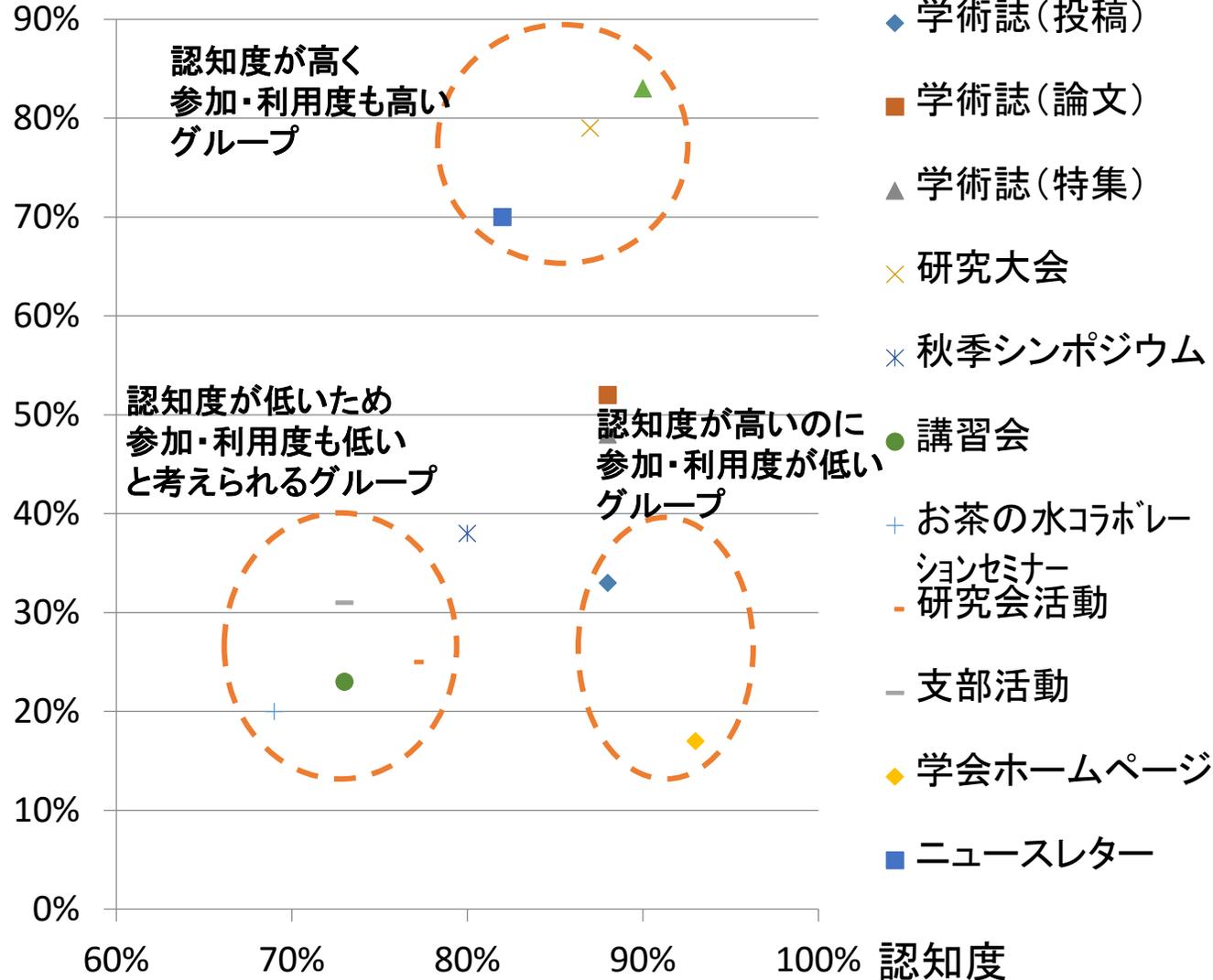


学会誌については多くの改善を求める声があることがわかりました。

研究大会、秋季シンポジウム、支部活動等についても、改善を求める声があることがわかりました。

活動別認知度と参加・利用度

参加・利用度



認知度が低いため参加・利用度も低いと考えられる活動があり、広報の方法を改善すべき活動

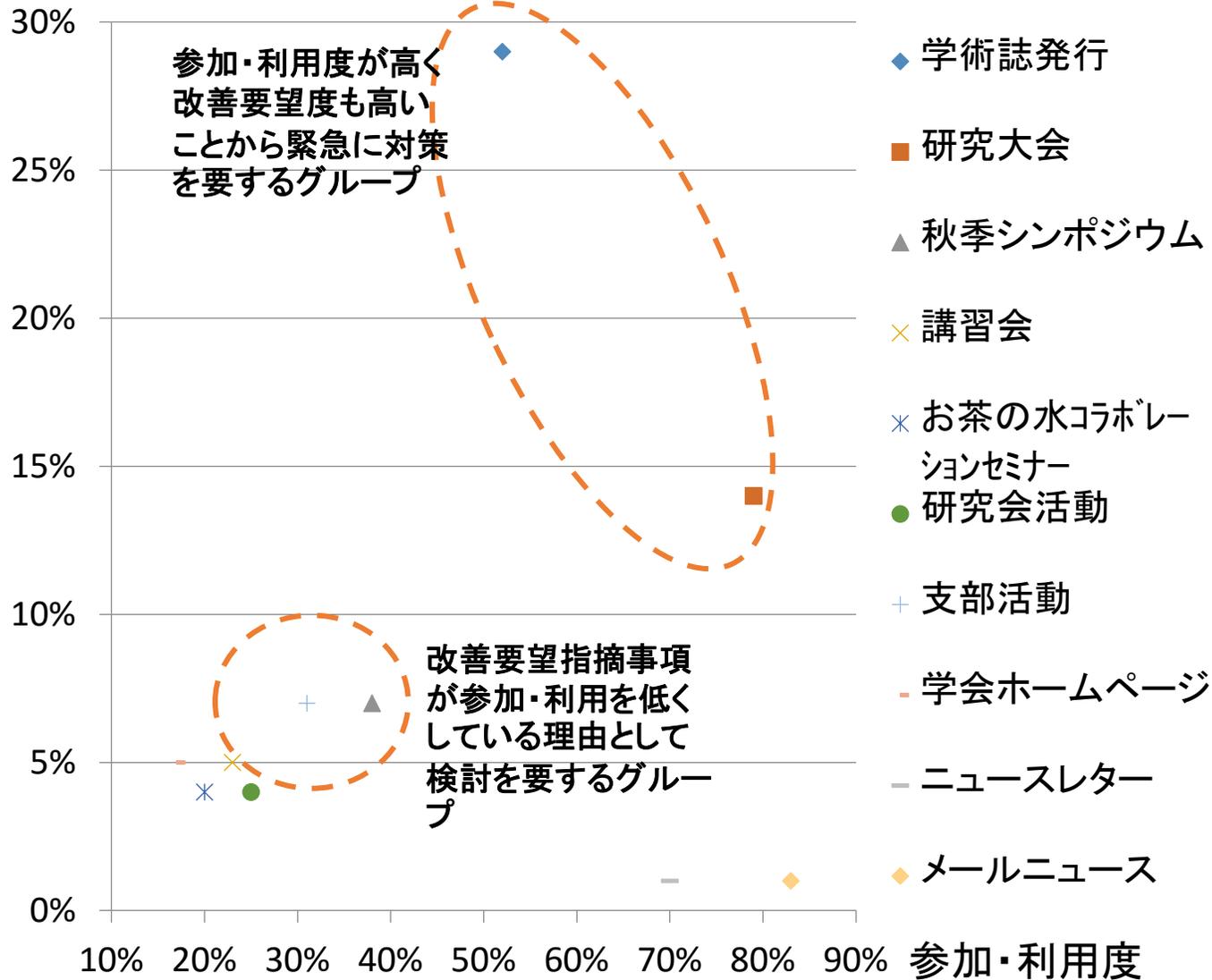
(お茶の水コラボレーションセミナー、講習会、支部活動、研究会活動など)

認知度が高いのに参加・利用度が低いことから内容の改善が必要な活動

(学会ホームページ、学術誌投稿など)

があることがわかりました。

活動別参加・利用度と改善要望度



参加・利用度が高く改善要望度も高いことから緊急に対策を要する活動
 (学会誌発行、研究大会)

改善要望指摘事項が参加・利用を低くしている理由として検討を要する活動
 (支部活動、秋季シンポジウムなど)

があることがわかりました。

IV. その他の活動

1. **認定講習会の開催**:平成27年5月21日と22日(高知市)、平成27年6月22日(調布市)開催
2. **ニュースレターの発行**:ニュースレター24号~26号を発行
3. **メールニュースの発行**:第552号~第671号発行(120回)
4. **お茶の水コラボレーションセミナー**:東京都市ヶ谷JST東京本部別館会議室にて第13回~第18回(全6回)のセミナーを開催(4月8日、5月14日、7月8日、9月9日、12月9日、2月24日)
5. **各種イベントや展示会での出展**:「第9回宇都宮大学企業交流会」(年9月11日、宇都宮市)、「アグリビジネス創出フェア2015」(11月18日~11月20日、江東区)「第18回産業交流展2015」(11月18日~11月20日、江東区)

会員数推移



皆さんの活動のおかげで会員数は増加傾向となっています

3号議案：平成28年度事業計画

アンケートでいただいた改善を踏まえ、平成27年度事業を踏襲して28年度事業を推進します

1. 大会の開催 第14回大会を浜松市で開催
2. 学会誌の発行「産学連携学」を年2回発行
3. 秋季シンポジウムの開催
4. 日韓ワークショップの開催など海外学会との連携強化
5. 産学連携に関するCPD講習会の開催
6. ニュースレター(年3回(予定))、メールニュース(随時)の発行
7. お茶の水コラボレーションセミナーの開催：平成28年5月、7月、9月、12月、平成29年2月に開催予定(全5回)
8. 各種イベントや展示会での出展

3号議案：平成28年度事業計画

各支部活動

1. 北海道支部：イノベーションとアントレプレナーシップに係るセミナーを年に1～2回開催
2. 東北・北関東支部：支部カンファレンスを開催（平成28年9月、秋田県にかほ市）、URAに関する事例報告と意見交換を行うイベント開催（平成28年12月、茨城大）
3. 関西・中四国支部：第8回研究・事例発表会開催（平成28年12月鳥取県米子市）
4. 九州支部：産学連携ネットワーク会議の開催

研究会活動

1. 学連連携システム研究会：2回程度の研究会を開催
2. オープンイノベーション研究会：大会、秋季シンポジウムと連携し、3回程度の研究会を開催
3. リサーチ・アドミニストレーション研究会：大会と併催した全国大会を開催するほか、2回の研究会開催、分科会/地方支部会を数回開催

5号議案：平成28年度表彰者

功労賞：伊藤慎一（秋田大学）
松平竹央」（知財経営研究社）

業績賞：大阪大学
江戸っ子1号プロジェクト

論文賞：間野純一（mano(研究開発 & 産学連携支援)技術士事務所）
市原勲（ビーアンドイーモデル研究所）
「開発型中小企業の総合的成長性評価システム」

特別賞：山名一男（富山大学）
九州・大学開物成務塾

6号議案: 定款の一部変更

主たる事務所住所の変更

変更前 東京都調布市小島町一丁目11番の6



変更後 東京都調布市

ありがとうございました

